

(株)身のこなしラボラトリー

筋肉の動きスマホで

福井大発ベンチャーが開発

小型センサーを無線化

福井大発のベンチャー企業「身のこなしラボラトリー」(本社福井市照手町4丁目、岡本耕至社長)は、筋肉の動きを測定し、光や音に変換する小型センサー「マッスルアライブ」の最新版を開発、11月末から販売を始める。スマートフォン(多機能携帯電話)やタブレット型端末と無線でつながり、筋肉の動きを示すグラフと運動の動画を見ることが可能になった。スポーツコーチ向けの指導ツールなどとして売り込む。



筋肉の動きを無線でスマートフォンに表示できる「マッスルアライブ」の最新版

今回は、ワイヤレスで送信できる小型トランスミッターを開発。マッスルアライブとトランスミッターを専用コードでつなげ、体に張り付ける。スマホに専用アプリをダウンロードして受信。無とで運動している動画と線のため運動の邪魔にならない。スマホの時に見ることが出来る。筋肉に負荷がかかる瞬間が音や光で分かるため、トレーニングの質向上に役立つほか、リハビリで力まない状態を確認(別売り)。

マッスルアライブは縦44ミ、横28ミ、厚さ12ミ、重さ15ミ。皮膚に張り付けて使い、体を動かす際に脳から筋肉に出される筋活動電位を測定、コンピュータ処理で瞬時に音や光に変える。パソコンと接続して、筋力の大きさを示す波形を画面で確認できる。